

各教科等チェックシート

学部・学年	氏 名
小学部〇年	〇〇 〇〇

小学部・小学校版

教科等	内 容	知的障害がある			知的障害がない						備考	
		小学部（段階）			小学校（学年）						具体的な指導内容	指導場面 教科・単元等
		1	2	3	1	2	3	4	5	6		
生活 （特別支援学校） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">生活科</div> 	ア 基本的な生活習慣				/							
	イ 安全											
	ウ 日課・予定											
	エ 遊び											
	オ 人との関わり											
	カ 役割											
	キ 手伝い・仕事											
	ク 金銭の扱い											
	ケ きまり											
	コ 社会の仕組みと公共施設											
	サ 生命・自然											
シ ものの仕組みと働き												
国語 ※（特）2段階 同観点 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">国語</div> 	知識及び技能											
	A 聞くこと・話すこと					●						教科書2年上
	B 書くこと					●						
	C 読むこと					●						
社会（小学校3～6年）												
算数 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">算数</div> 	A 数と計算					●						
	B 図形					●						
	C 測定					●						
	D データの活用 （数学的活動）					●						
理科 （小学校3～6年）	A 物質・エネルギー						●					
	B 生命・地球						●					
生活 （小学校1・2年）												
音楽 	A 表現 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">音楽</div>						●					
	B 鑑賞						●					
図画工作 	A 表現 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">図工</div>						●					
	B 鑑賞						●					
家庭 （小学校5・6年）	A 家族・家庭生活											
	B 衣食住の生活											
	C 消費生活・環境											
体育 	A 体づくり運動遊び（小2と3段階 体づくり運動）						●					
	B 器械・器具を使つての遊び（2・ 3段階 器械・器具を使つての運動）						●					
	C 走・跳の運動遊び（2・3段階 走・跳の運動）						●					
	D 水遊び（2・3段階 水の中での 運動）						●					
	E ボール遊び（2・3段階 ボール を使った運動やゲーム、小学校 ゲーム）						●					
	F 表現遊び（2・3段階 表現運 動、小学校 表現リズム遊び）						●					
	G 保健 *小学校 項目なし						●					
外国語 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">外国</div> 	知識及び技能											
	思考力・判断力・											
外国語活動 ※(1)												
特別の教科 道徳※(2)												
総合的な学習の時間												
特別活動												

小学部〇年生ですが、一部下学年の内容を学んでいます。この児童のように、教科等を合わせた指導がない場合などは、「指導場面」の記載はしなくてもかまいません。

※(1) 「外国語活動」：知的特別支援学校の小学部において、必要に応じて設けることができる。
 ※(2) 「特別の教科 道徳」：小学校に準ずる（原則同一、他配慮事項あり。）

自立活動フローシート

学部・学年 小学部〇年 氏名 ○〇 ○〇

フローシートが授業づくりに活かされた例です。

発達の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさについて情報収集

- ・学習に対する意欲はある。学習した事柄を生活に生かそうとすることができる。
- ・教えたことは覚えられているが、自分で考えることは苦手である。
- ・両耳に補聴器を装着している。補聴器の適応は良好。日常会話は音声言語のみでできる。
- ・発音は「は行音→か行音」「さ行音→た行音」「が行音→ら行音」「や行音→りや行音」に置換している。「は行音」は短音では明瞭に発音できるが単語や短文では不明瞭になりやすい。舌をスムーズに動かすことはやや苦手としている。
- ・友達に優しく接することができる。相手に合わせて話し方を変えることができる。休み時間に全員に遊ぼうと言葉をかけたたり、「何で遊びたい?」と聞いて遊びを決めたりするなど、リーダー的な存在である。
- ・自分の意に反することを言われたり、間違えたりした時にショックを受けなかな受け入れることができない。

実態把握

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ・健康面は良好である。 ・補聴器とレシーバーの電池を毎朝自分で確認することができる。 ・ロジャーの使用を市に申請中である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意に反することを言われたり、間違ったりした時にショックを受け、なかなか受け入れることができない。 ・日記や作文には、楽しかったことや成功体験だけを記すなど、気持ちを表現することを苦手としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に優しく接することができる。休み時間に全員に遊ぼうと声をかけたり、「何で遊びたい?」と聞いて遊びを決めたりするなど、リーダー的な存在である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・舌や口をスムーズに動かすことはやや苦手である。 ・授業中、姿勢が崩れやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常会話は音声言語のみでできる。 ・4～5語文で会話することができる。 ・相手に合わせて手話とキュードスピーチを使い分けることができる。 ・発音発語については、さ行音がやや不明瞭であり、た行音に置換している。 ・聴覚活用については、友だちや教師に注目し話を聞こうとしたり、口声模倣をしたりすることができる。

記者者より
「実態把握」の欄が初めから6区分に分かれているので、「実態把握」をする段階で、自立活動の内容の6区分について意識することができた。

いくつかの指導目標の中で優先する目標として

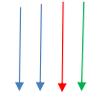
3年後にめざす姿	○小学部卒業までに、失敗を素直に受け入れ、改善しようと行動を改めていくことができるようになる。
----------	---

長期目標(年間)	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の間違いを認めることができる。 ○間違えた時にどのような態度を取れば良いか知り、意識することができる。 ○語彙を増やし、会話や文章の中での表現の幅を広げる。
----------	---

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選定した項目	①生活のリズムや生活習慣の形成	①情緒の安定	①他者とのかかわりの基礎	①保有する感覚の活用	①姿勢と運動・動作の基本技能	①コミュニケーションの基礎的能力
	②病気の状態の理解と生活管理	②状況の理解と変化への対応	②他者の意図や感情の理解	②感覚や認知の特性への対応	②姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用	②言語の受容と表出
	③身体各部の状態の理解と養護	③障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	③自己の理解と行動の調整	③感覚の補助及び代行手段の活用	③日常生活に必要な基本動作	③言語の形成と活用
	④障害の特性の理解と生活環境の調整		④集団への参加の基礎	④感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握	④身体の移動能力	④コミュニケーション手段の選択と活用
	⑤健康状態の維持・改善			⑤認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	⑤作業に必要な動作と円滑な遂行	⑤状況に応じたコミュニケーション

コピーして利用を



選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から間違いをしてもよいことを伝える。 ・道徳の時間に、間違いをした時の態度について話し合う。 ・間違いを認められない時は、自分が今どのような態度を取っているか振り返るように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日記発表の場を設け、児童の表現を補ったり、別の言い方を紹介する等、語彙の拡充を図る。楽しかったこと以外にも失敗談や残念なエピソードを書くことを勧め、それを日記に書いてきた時に褒める。 ・トピックスや授業で扱った言葉を日常生活で意識的に使い定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発音発語については、さ行音について指導する。 ・生活のあらゆる場面、教科学習など全ての中で、口声模倣、聞き分け、音節数、リズムやイントネーションなどを意識し、聴覚活用を図り、音韻表象を確立できるようにする。
----------	--	---	---

指導場面(各教科・単元名)	教科等	単元名等	教科等	単元名等	教科等	単元名等
	道徳	友達となかよくするには…	国語	さがが大きくなるまで	自立	おはなしをしよう
自立	自分のきこえにくさについて考えよう					

記者者より
「具体的な指導内容」に記載した「発音発語については、さ行音について指導する。」については、自立活動の時間における指導において、個別指導の形態をとって行っています。

※ 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)

「自立活動フローシート」が授業に活かされたポイント

- ・実態把握により、間違えたときに過度に反応する様子が確認できたため、間違いを過度に気にすることがないよう、どんな発言に対しても肯定的に受け止めるようにしました。
- ・授業研究会では、対象児童がこの授業を通して学んだ言葉をどのような場面で活用させ、定着を図るか具体的な話し合いが行われました。

1 題材名「さけが大きくなるまで」(教育出版 2年下)

2 題材について

本学習グループは、〇名で構成されており、〇学年対応の学習を進めている。児童は語彙力が育ってきて、考えの根拠を述べながら発言することができるようになってきている。しかし語彙力は十分とは言えず、日記で使う気持ちの表現がいつも同じであったり、読み取りに必要な言葉を知らなかったりしている。今年実施したリーディングテストでは、〇名が「小学〇年生の〇学期から〇学期」、〇名が「小学〇年生以下」という結果であり、語彙や読み取りの力に課題が見られた。

児童は今年度、読みの学習では、物語文「きつねのおきゃくさま」を学習した。似た場面が何度も繰り返される展開だったことで、児童は繰り返される本文の言葉に着目し、場面展開を理解しながら読み進めることができた。本文に十分に目を向けず間違った読みをしている場合も、話し合いの中で本文に着目し、間違いに気付くことができた。一方で本文に書かれていない登場人物の行動の理由や気持ちを想像することが難しく、書かれていないことに関して友達の見解を素直に認められなかったり、そのよさを感じられなかったりすることがあった。話し合い活動では、引き続き本文根拠に分かりやすく伝えることを大切にしながら友達の見解を認めたり、考えを伝え合うことで読みを深めたりしていくことができるようになればと考えている。

本題材は学習指導要領の第1学年及び2学年のC読むこと(イ)「場面の様子や登場人物の行動など内容の大体を捉えること」(エ)「場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像すること」を受けて設定された単元であり、「さけがいつ、どこで、どのように育っていくのか整理しながら読むこと。」

「さけの子供の大きさ、暮らす場所などを表す言葉に気をつけながら、さけが成長していく様子を読むこと。」が重点目標である。児童が本文中の情報を整理して、さけの育っていく過程を捉えられるようにしたい。また成長過程を追うだけでなく、さけがなぜそのようにして育つのか考え話し合う活動を取り入れ、児童の興味を広げたり考えを深めたりしていきたいと考える。また、内容理解を補うために、川が川上から川下に流れ、海につながっていることなど、読み取りに必要な知識について事前に扱ってから本文の学習に入りたい。

本時では、さけの育ち方を絵図で表すことを目標に、児童自身でさけの大きさ、育つ場所、時期などを読み取り大まかに内容を捉える活動を設定する。本文の記述を根拠に児童が話し合い協力して図を仕上げられればと思う。本時以降の活動では、作った図や本文の写真、分かったことから、さけの各成長段階についてもっと知りたい疑問点を児童と一緒に挙げ、話し合い活動につなげていく。また、この際さけの様子を表す本文の重要語句を丁寧に確認し、児童が様子を想像できるようにすることも大切にしたい。話し合いの最後には、疑問点に関して事実を紹介する。

3 題材の目標

- ・さけの成長の過程に興味を持ち文章を読み進めること。〔関心・意欲・態度〕
- ・さけの成長に関わる言葉に留意しながら、さけが成長していく様子を読みとることができる。〔読む〕
- ・さけの成長の過程を時系列に沿って順序立てて分かりやすく説明することができる。〔話す・聞く〕

4 題材の指導計画（13時間扱い）

- ・川上から川下、海までの水の流れを模造紙にかく。・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- ・全文を読み、課題を知る。段落分けをする。・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- ・全文から意味の分からない言葉を挙げ、意味を確かめる。・・・・・・・・ 1時間
- ・さけの産卵、卵から大人になるまでの成長の様子を読み取り、図にする。・・ 3時間（本時2／3）
- ・各段落でのさけの様子について細かく読み取り、図に書き加える。・・・・ 3時間
- ・役割分担をしてさけの成長過程について説明する文を書く。・・・・・・・・ 2時間
- ・さけが成長する様子を説明する練習をする。・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- ・さけが成長する様子を発表する。学習の感想をノートに書き、発表する。・ 1時間

5 本時の指導

（1）目標

【全体目標】

- ・卵から生まれたさけが5cmほどの小魚になるまでの成長の様子（大きさ、育つ場所、季節）を読み取り、絵図に表すことができる。〔読む〕
- ・さけの成長の様子について本文の記述を基に発表することができる。〔話す・聞く〕
- ・友達の見解と自分の考えを比較して、意見を言うことができる。〔話す・聞く〕

【個別の指導目標及び手立て】（黒板に向かって右から）

児童	目標	手立て	評価
A	<ul style="list-style-type: none"> ・さけの成長の様子（大きさ、育つ場所、季節）を絵図や言葉で簡潔にかき表すことができる。 ・本文中の記述を根拠に考えを述べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・川上から海に至るまでの絵図に実物大のさけの絵図を描きこむことを目標にすることで、大きさと場所に着目した読みができるようにする。 ・言葉で書く際は、本文をよく確認するように促し、書き間違いのないようにする。 ・本文中の季節、大きさ、場所、様子が分かる言葉に線を引くようにし、発表の際 	<ul style="list-style-type: none"> ・さけの成長の様子を実物大の絵図や場所、季節などの言葉でかき表すことができたか。 ・本文中の記述を根拠に考えを述べることができたか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表を聞き、自分の考えと比較して相手に伝えたり、質問したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> の根拠となるようにする。 ・友達と意見が違うときは考えの根拠を問うように促す。質問の仕方を掲示しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表を聞き、自分との相違点を述べたり、考えの根拠を質問したりすることができたか。
教科の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・問われれば考えの理由を述べることができるが、本文からではなく自分の思い込みで答えることが多い。先入観や挿絵にとらわれやすい。 ・友達の意見を聞いて納得することもあるが、自分の思いが強く受け入れられないことがある。 ・文中から誰、何などの簡単な事柄を抜き出すことができるが、自力での内容の読み取りは難しい。 ・板書や本文を書き写す際に脱落や間違いが目立つ。 		
B	<ul style="list-style-type: none"> ・さけの成長の様子（大きさ、育つ場所、季節）を絵図や言葉で簡潔にかき表すことができる。 ・本文中の記述を根拠に考えを述べることができる。 ・友達の発表を聞き、自分の考えと比較して相手に伝えたり、質問したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・川上から海に至るまでの絵図に実物大のさけの絵図を描きこむことを目標にすることで、大きさと場所に着目した読みができるようにする。 ・言葉で書く際は、本文をよく確認するように促し、書き間違いのないようにする。 ・本文中の季節、大きさ、場所、様子が分かる言葉に線を引くようにし、発表の際の根拠となるようにする。 ・友達と意見が違うときは考えの根拠を問うように促す。質問の仕方を掲示しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さけの成長の様子を実物大の絵図や場所、季節などの言葉でかき表すことができたか。 ・本文中の記述を根拠に考えを述べることができたか。 ・友達の発表を聞き、自分との相違点を述べたり、考えの根拠を質問したりすることができたか。
教科の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の記述に沿って文章の内容を読み取ろうとする。 ・本文の記述通りに事実を読み取ることはできるが、因果関係を考えることは難しく、本人に苦手意識がある。 ・感想を述べるなど、自由度の高い発言をすることはやや苦手としている。 ・友達の意見に対して本文に明確な記述があればそれを根拠に意見を言うことができる。 ・新しく学習した語句を生活の中で使おうとする。 		

(2) 仮説との関連

本校○学年における主体的な児童像とは、「発問に対する答えを自ら探そうとしたり、考えて答えようとする児童であり、対話的な児童とは、友達の意見を最後まで聞き、認めたり考えを言ったりすることのできる児童である。」と考える。

本学習グループは、小学部で考案した「主体的、対話的な児童の段階表」において「友達の意見を聞いて質問している」段階である。児童は友達の作文や日記等の発表を聞いて、積極的に質問しようとしている。しかし、その質問は「誰」「何」や、発表内容の繰り返しなど表面的なものが多い。今後は、「どうして」や「どんな」など内容を掘り下げる質問ができるようになることを目指している。

本題材では、さけの成長過程を絵図にすることを目標にすることで、児童の興味関心を引き出し、

発問に対する答えを自ら探そうとするという児童の主体性につなげたい。本文中には、大きさや、場所、季節などを表す言葉が頻繁に登場するため、児童はそれらの言葉を頼りに自分たちでさけの成長過程を追うことができるだろう。絵図を完成させるという共通の目標のために、本文中の言葉を根拠とした活発な意見の交換がなされるだろう。ここで意見の相違が見られた場合は考えの根拠について質問したり、答えたりできるようにしたい。そのために「どこに書いてあったのですか。」「どうしてそう思ったのですか。」のような質問の仕方カードを掲示して児童同士のやりとりを促す。このように学習していくことで目指すべき児童像に近づけることができるだろう。

また、初めに自分たちで絵図に表して大まかな内容を捉えることで「さけはなぜ川底に卵を産むのか。」や「さけの赤ちゃんのおなかにはなぜ赤い袋がついているのか」など、読み取った事実について児童自身が興味深く疑問点を見いだせるのではないかと考える。それらの疑問点を持つことでさらに深い読みや、話し合い活動につなげていくことができるだろう。

(3) 展開

時配	学習内容と活動	手立て及び留意点	備考
5	○めあてを確認する さけが大きく育つまでの様子を絵図にしよう。		
5	○前時までの復習をする。 ・大人のさけの大きさはどれくらいですか。 ・写真(遡上・産卵)のさけは何をしているところですか。 ・70cmほど ・海から来たさけが川をのぼっているところ。 ・さけが川底にたまごを産んでいるところ。	・事前に作成した川上から海までの絵図を基にして発表するように促す。	70cmのさけの絵図 さけの写真 川上から海までの絵図
	○本時の範囲を確認し、音読する。	・読み間違いはその場で正す。 ・本時の範囲のさけの写真を示し課題を明らかにする。	拡大本文
15	○さけの子供の成長の様子を読み取る。 ・季節、さけの大きさ、様子、育つ場所に線を引きましょう。 ・冬、冬の間/3cm、3cmくらい/ ・おなかに赤いぐみのようなえいようのはいったふくろ、 ・4cmくらい/春、春になるころ/5cmくらい、 ・海/川/海にむかって川を下りはじめます。 ・さけの子供が育つ様子を絵図にしよう。 ・3cmのさけのおなかに赤いふくろが付いている絵図 ・3cmのさけの次が5cmのさけになる絵図 ・3cmのさけの次が4cm、そして5cmになる絵図	・それぞれ色分けして線を引き、情報を整理できるようにする。 ・探し出せずに困っている児童には、大きさは「cm」季節は「春夏秋冬」の文字を探すように言葉をかける。 ・発表場面での意見交換で間違いに気づけるように、間違いは指摘しない。 ・タイマーを使用し、絵図を描く作業に移る時間を知らせる。 ・制限時間を設け見通しを持って短時間で作業できるようにする。	

		<ul style="list-style-type: none"> ・事前にさけの絵図の描き方を指導し短時間で簡略化して描けるようにしておく。 ・実物大で描けるように、必要に応じて定規の使い方を支援する。 ・さけの成長段階ごとに用紙を一枚使用するようにし、後の修正や掲示に便利なようにする。 	用紙
10	<p>○さけの子供の成長の様子を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卵からさけが育つ様子を発表しよう。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・冬の間にたまごからさけが生まれる。大きさは3cmくらいで春に5cmメートルくらいになる。 ・さけは生まれたときはおなかに赤いぐみのような袋がついている。ふくろがなくなって4cmくらいになる。 ・5cmのさけは海にいる。 ・5cmのさけは川をくだって海に行く。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「季節」「大きさ」「育つ場所」「様子」と板書し、自分の描いた絵図について観点に沿って簡潔に説明できるようにする。 ・友達の発表をきいて付け足しや、自分との相違があれば質問するように促す。 	質問の仕方
7	<p>○作成したさけの絵図を川上から海の絵図上に貼り、季節、大きさ、様子、育つ場所を書き込む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・質問の仕方カードを提示しスムーズにやりとりできるようにする。 ・質問に答える際は、本文中から根拠を示すように促す。 ・「3cm」と「3cmくらい」、「春」と「春になるころ」など、細かな表記による意味の違いを確認する。 	質問の仕方 カード
	<p>○作成したさけの絵図を川上から海の絵図上に貼り、季節、大きさ、様子、育つ場所を書き込む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・川上から川下、海の絵図上でさけの子供の絵図を操作し、イメージが持てるようにする。 ・項目ごとに色分けした用紙を準備する。 ・板書を隠し、自力で記入するようにし、児童の理解を確かめる。 	川上から海 までの絵図 色つき用紙
3	<p>○本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卵から生まれたさけの子供はどのように育ちましたか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>さけは(冬)に卵から生まれる。大きさは(3cmくらい)で(おなか)に栄養の入った赤いぐみの実のような袋が付いている。やがて袋がなくなり(4cm)くらいになる。春になる頃、さけの子供は5cmくらいになって(海)へ向かって川を下り始める。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・季節、大きさ、様子、育つ場所を穴埋めにして提示する。 	まとめの掲 示物

【評価】

- ・卵から生まれたさけが5cmほどの小魚になるまでの成長の様子(大きさ、育つ場所、季節)を読み取り、絵図に表すことができたか。〔読む〕

- ・さけの成長の様子について本文の記述を基に発表することができたか。〔話す・聞く〕
- ・友達の意見と自分の考えを比較して、意見を言うことができたか。〔話す・聞く〕

6 児童について（黒板に向かって右から）

（1）聴力レベル

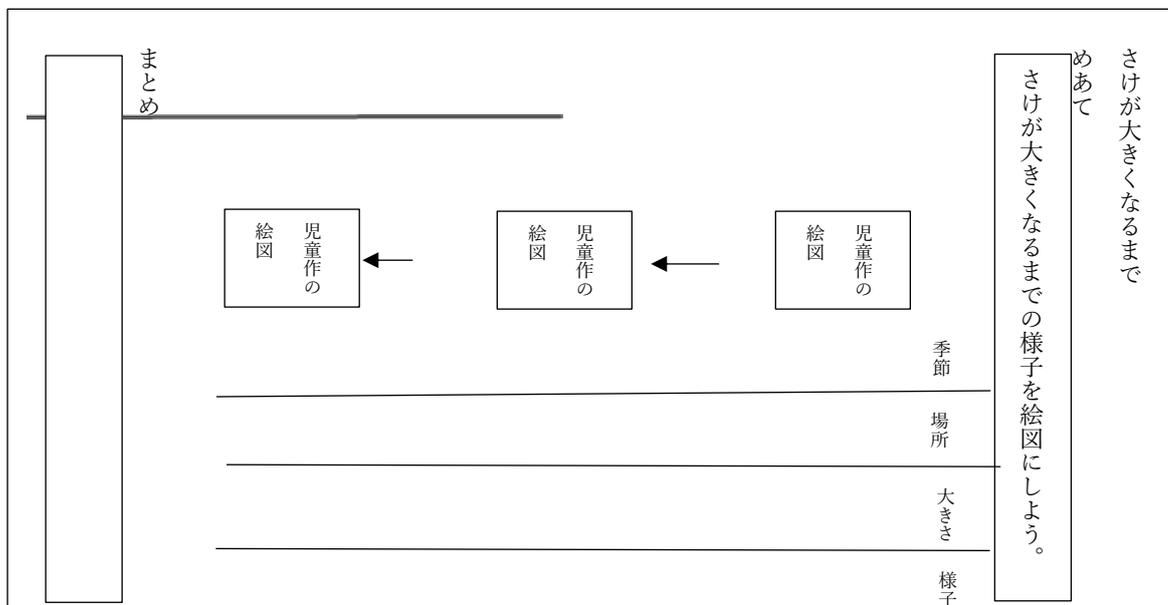
児童		平均聴力レベル (dBHL)	装用閾値 (dBHTL)				
			250Hz	500Hz	1000Hz	2000Hz	4000Hz
A 右 HA/左 HA	右						
	左						
B 右 HA/左 HA	右						
	左						

（2）所見

児童	コミュニケーションなどに関する所見
A	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション手段は、キュードスピーチ・手話。聞き慣れた言葉であれば音声だけで聞き取れるが、発音は不明瞭で口話だけでは伝わらない。 ・キュードスピーチが不明瞭なため、相手に伝わりにくいことが多い。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション手段は、口話・キュードスピーチ・手話で、発音は明瞭である。 ・間違えたり自分の考えを否定されたりしたときに、受け入れられないことがある。

7 備考

（1）板書計画



（2）配置図

